

### 31. <「下水鉱山」とは何だ？>

筆者は、以前このコーナーに「汚泥金山」という拙文を掲載して頂き、何人かの読者からは面白かったという感想も頂き、有り難く思っております。それはさておき、筆者は、最近「汚泥金山」ならぬ「下水鉱山」という不思議な単語を目にしました。これは、英語の” Sewer Mining” を訳したものらしいのですが、さて、下水を掘り当てることを目当てに地面を掘る人がいる訳はないし、「下水鉱山」とは一体何なのでしょうか？

調べて見ると「下水鉱山」とは、主にオーストラリアで使われている言葉のようで、下水管きょから任意の場所で下水を取水し、その場でコンパクトな処理施設により処理して、その処理水を公園やゴルフコースなどの散水用水あるいは修景用水といった用途に利用するという意味だということがわかりました。

我国でも、中間処理施設による処理水の河川流量確保用水利用として類似のアイデアがありますが、「下水鉱山」では、流下中の下水を積極的に利用することにより生じるメリットとして、以下のような点をあげています。

- ① 水事情が厳しい状況下では、貴重な水資源を節約できる。
- ② 下水処理施設への流入量を低減させることにより処理施設の負荷が軽減できる。
- ③ 流下能力不足の下水管きょネットワークの負荷を軽減できる。
- ④ 渇水時でも安定した灌漑・散水用水が確保できる。
- ⑤ 修景利用等による街のイメージアップができる。

これらを見ると、処理水再利用には実利的な側面を大いに期待していることがわかります。水資源の豊富な我国では、処理水再利用に関する事情は少し異なると思いますが、それにしても下水処理施設への負荷低減や管きょの負荷低減については、なるほどこんな考え方もあるのかと感心させられました。

それにしても、地下を縦横に走る下水管きょを鉱脈とみなし、そこから貴重な資源

としての下水を掘り出すという考え方は素晴らしいと思いませんか？

< 村上 孝雄 >

※No. 35号(2004/12/1)に掲載